

南アフリカ為替週報

2021 年 10 月 28 日 | みずほ銀行欧州資金部

MIZUHO

＜過去 1 週間の動き＞

(10 月 21 日～10 月 27 日)

USD/ZAR: 14.3975～15.0850
ZAR/JPY: 7.55～7.94 (参照値)

過去 1 週間の南ア・ランド相場は反落。直近 6 営業日の上昇分を、5 営業日で全て吹き飛ばした(対ドル)。ランド反落の要因を、南ア国債の反落(利回りは上昇)に求めることはできただろう。南ア国債下落は、米長期金利上昇のあと追いの様相も示したが、米長期金利上昇の背景は判然としなかった。原油価格高止まりを背景とした漠としたインフレ懸念に、米 20 年債入札の不調(20 日)や米 9 月中古住宅販売の上振れ(21 日)のような(地合によっては看過されるような)細かい要因を殊更材料視したようだ。それ以上に重要と思われたのは、18 日以降の南ア国債上昇(利回りは低下)が、そもそも(同日発表された)南ア国債取引実績データ改定という見掛け上の「改善(非居住者からの資金流入)」によるものだった点ではなかったか。データ改定によって認識(注)が変わったのは事実でも、そのこと自体、従来の資金流になんの変化も及ぼさないからだ。加えて、23 日以降、南ア電力公社(Eskom)による計画停電が続いていることも、ランドには重石になったのではないかと。26 日以降のランド下落は、平行した金/プラチナなど貴金属(南ア主力輸出産品)価格の頭打ち、反落を反映した値動きと考えられた。一方で、21 日、大手労組南ア全国金属労働者組合(NAMSA)が賃金交渉で妥協、3 週間に及んだストライキを終了させたことは、ランド押し上げに資する好材料と読むこともできたはずだが、上述の通り、通貨市場が材料視した様子は読み取れなかった。

＜向こう 1 週間の見通し＞

(10 月 28 日～11 月 3 日)

USD/ZAR: 14.800～15.250
ZAR/JPY: 7.40～7.65

向こう 1 週間の南ア・ランド相場は、軟調推移継続を中心に予想。仮に、1 日投票の統一地方選で、与党アフリカ民族会議(ANC)が予想外の健闘(現時点では、支持率、獲得議席数、過半数を取れるカウンシルの数など、いずれも前回選挙(2016 年)より若干低下することが見込まれている)を見せれば、ランドが反発する可能性も考えられる。4 日に予定されていた(当初 2 日とも聞いたが)中期予算政策声明(MTBPS)は、地方選と間隔を空けるために 11 日に延期されたため、目先の注目材料のひとつは翌週以降に持ち越しになった。ランド軟調を中心に見る一因は、南ア電力事情に不安があるから。Eskom は、27 日、従来ステージ 2(2,000MW 削減)だった計画停電を、ステージ 4(4,000MW 削減)に引き上げると発表した。現在までのところ、計画停電は、製造業、鉱工業などへの影響が限定的な深夜～早朝に限られる模様だが、電力安定供給、そのための Eskom 債務再編、分社化などは、ラマポーザ大統領の各種改革の最重要案件のはず。計画停電の回避失敗は、一事が万事、同改革の進展がはかばかしくない事実を内外に喧伝するようなものではないか。そういう目で見れば、MTBPS の延期を、与党の取りまとめの遅滞を示唆していると深読みすることもできる。そもそも、同予算に関しては、観測気球的な具体策は(少なくとも筆者の知る限り)ほとんど聞こえてこないし、ゴドングワナ財務相の存在感は、8 月の就任以来、一貫して薄い。地方選の結果が明確になるのを待つというのは、一見、理に適った判断のようにも聞こえるが、地方議会/政府の構成が中央政府の予算編成に如何程の影響を及ぼすとも思えない。ただ単に、財務相の準備が間に合っていないだけのことではなからうか。

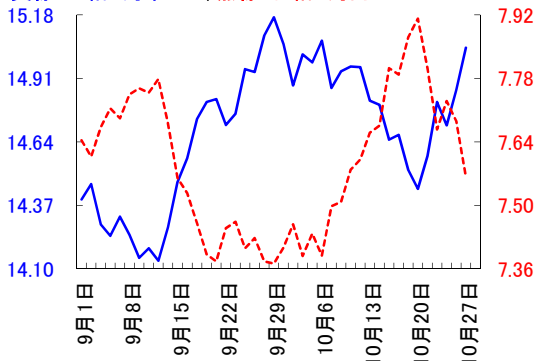
＜向こう 1 週間に発表予定の主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
10/29	6:00	民間部門信用(前年比)	9 月		+2.10%	+1.21%
	12:00	貿易収支(ZAR)	9 月		+35.3bn	+42.4bn
	12:00	財政収支(ZAR)	9 月		-10.3bn	-39.3bn
10/2		自動車販売統計(前年比)	10 月			+15.8%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

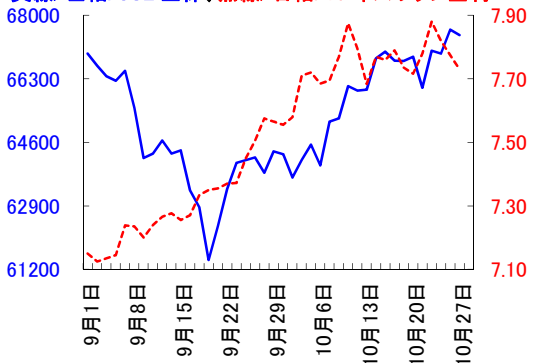
為替相場の推移 (資料: ロイター)

実線/左軸: 対米ドル、点線/右軸: 対円



株式/長期金利の推移 (資料: ブルームバーグ)

実線/左軸: JSE 全株、点線/右軸: 10 年スワップ金利



南アフリカ関係主要経済指標

政策金利(レボ金利)		3.50%
長期金利(10 年スワップ)	10 月 27 日	7.730%
株価指数(JSE 全株)	10 月 27 日	67475.09
成長率(GDP/前年比)	Q2	+19.3%
経常収支(ZAR)	Q2	+343bn
失業率	Q2	34.4%
消費者物価(前年比)	9 月	+5.0%
小売売上高(前年比)	8 月	-1.3%
製造業生産(前年比)	8 月	+1.8%
鉱業生産(前年比)	8 月	+2.0%
貿易収支(ZAR)	8 月	+42.4bn
金価格(ロンドン 17:00)	10 月 27 日	1794.51

(注) 従来、非居住者による南ア国債投資は、年初来 990 億ランドの純流出と認識されていたものが、一夜にして同 219 億ランドの純流入とされた、

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。